

『学習社会研究』第4号では「学習社会とダイバーシティの推進」をテーマとする。

人間にとって学習を続けることが人間的であるための方法であり、また人間の権利と自由を実現するための方法であるとすれば、自ら学習の方法と機会を選択することができ、その成果が正当に評価されうる社会が求められる。これまで『学習社会研究』で設定されてきた「学習社会」と「地域主権」、「つながりの再構築」、「学習都市」というテーマは、そのような社会の基盤となるものであり、人間が人間として生存するための空間と関係性の在り方を問うものであった。今号のテーマであるダイバーシティの推進もまた、学習社会を成立させ、そこで人間的な在り方を成立させる重要な要件の一つである。

2001年ユネスコ『文化的多様性に関する世界宣言』第1条では、「生物的多様性が自然にとって必要であるのと同様に、文化的多様性は、交流、革新、創造の源として、人類に必要なものである。この意味において、文化的多様性は人類共通の遺産であり、現在及び将来の世代のためにその重要性が認識され、主張されるべきである。」と述べられ、また「人権と基本的自由、特に先住民の自由への取り組みを意味」（同第4条）するものと捉えられている。そして当然ながら現代社会で求められる多様性：ダイバーシティは文化的側面だけでなく、社会的な制度・慣習・思考様式・行動様式における多様性をも含むものと捉えられる。すなわち社会におけるダイバーシティの推進は、その社会の一人ひとりが人として尊重され、それぞれの存在の多様性が受容され、それぞれが個性を発揮することが許され、その相乗効果の上に社会の持続可能な発展に不可欠なものと言える。

現代社会が抱える様々な課題—貧困、環境破壊、人種・民族・社会的マイノリティ・セクシャリティ・LGBT・障害を持つものへの偏見、差別、権利の剥奪など—に対し、社会的不平等、社会的分断の構図を変え多種多様な存在を認め合う共生の基盤へと形作るために学習社会に多様性が必要とされ、また多様性を推進するために学習社会の概念が必要とされる。多様な観点から現実社会に内在する問題と多様性の推進への課題を解明することが喫緊の課題と考えられる。会員の皆様から多くの論考を投稿いただければ幸いである。